

2016年2月19日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー
「障害者差別解消法と学修支援」 参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 52名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数： 38件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・主として図書館への支援に興味があり参加しましたが、障害者差別解消法を多角的に理解できたとともに、実例を深く知ることができ有益でした。
- ・障害者への様々な支援について初めて聞くことばかりでした。
- ・著作権との関係がよくわかりました。
- ・大変参考になりました。
- ・障害学生への支援については、本学も委員会がありますが、それほど支援の実践がありません。4月からは聴覚障害の学生が入学してきますので、他大学の先進的な事例をきき大変参考になりました。
- ・ノートテイクを知らなかったの、支援方法として興味深かった。
- ・ノートテイクについて。
- ・学生のために図書館が法律にかかわることまで配慮されているのだなと感じた。
- ・37条のガイドラインの存在は知っていたが、正直運用の方法についてはよくわかっていなかった。細かな内容、それぞれの運用のために必要な配慮等よく理解できた。
- ・2016・4前にまさに必要としている内容のセミナーでとても助かり有り難いものだった。
- ・37条のガイドラインと DCR、etc.の支援業務について知ることができた。本学でも状況を確認して参考にしたい。
- ・障害者支援として、「著作権法のガイドライン」と「ノートテイク」という具体的な事例を初めて知りました。（全く専門外ですので）。個々のボランティアや専任職員のご尽力の上になりたっていること、改めて素晴らしい取り組みだと認識しました。
- ・著作権法37条ガイドラインの策定経緯に興味深かったです。
- ・ノートテイクについて。
- ・立命館大学の支援学習の実態について。
- ・講演1では、基本的なことが押えられ、講演2、3では具体的事例を聞くことができ有意義でした。
- ・ノートテイクを初めて目にすることができました。
- ・ノートテイク会の具体的な活動状況を聞くことができ、大変興味深かったです。
- ・著作権法第37条のガイドライン作成のために、図書館団体と権利者団体で1年にもわたって交渉がありその交渉の結果このガイドラインが出来たというのを今日のセミナーで初めて知りました。
- ・著作権法第37条ガイドラインが作られた背景、大学でのとりくみ（図書館の学修支援、情報提供）
- ・ノートテイクの実際
- ・所蔵資料でなくてもよいこと。
- ・コーディネーターの役割が重要であること。
- ・千葉大のノートテイク会のことを改めてきちんと聞くことができ勉強になりました。また立命館大学の事例（視覚障がい）も新たな学びでした。（ALCだから仕方ないかもしれないが、図書館のことに特化しすぎ？）
- ・著作権方37条ガイドラインの経緯と内容

（次ページに続く）

- ・障害の種類と程度はその大学（図書館）の判断によるという部分がよいのか悪いのか（利用者にとって）。図書館によって差が生じることを意味することがわかりました。千葉大の取り組みがとても参考になりました。
- ・障害者への資料提供の流れがよくわかりました。
- ・ノートテイクの実際の活動は大変ではあるが、やりがいのある活動であることがよくわかりました。
- ・具体的な話が聞けて良かったです。
- ・図書館の対応が理解できた。
- ・障害者に対応したサービスが国立大学を中心に行われていることがわかった。
- ・著作権法第37条のガイドラインについて詳細に説明いただき、大変よくわかった。何ができるかできないかをしっかり考えてみたい。
- ・著作権にまつわる障害者へのサービスの弊害について、また解消法について理解することができました。ありがとうございました。
- ・著作権法第37条の解釈について聴くことができ大変参考になりました。今回の講演で、様々な形の障害をもつ方々に柔軟な対応がとれるとわかりました。
- ・ガイドラインの意義と策定のご苦労
- ・実際に障害のある学生を支援している状況、よくわかりました。
- ・障害者差別解消法の施行にともなって行うべきこと。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・もう少し時間があれば。
- ・manaba+R で提供しているのは音声？
- ・他機関とのデータ相互利用の展望について。他大学と協力すれば、かなりのデータ共用ができるのでは？
- ・視覚、聴覚障害といった比較的理解しやすい障害の支援ではなく、また体力的な支援も必要となる肢体不自由等については、どのような方針がとれるのでしょうか。
- ・身体障害者以外の障害者への支援は今後どのように実現していけるのでしょうか。
- ・障害者差別解消法の概要がかんたんにでも説明があると理解がさらに進んだと思いました。
- ・障害者差別解消法の条文が参考資料としてであると良かったと思います。
- ・障害者支援室（学修支援体制）というのはどの大学でも設置されているのか（義務？）
- ・図書館と支援室の連携のしくみなど。支援室の位置づけ。
- ・大変難しいとは思いますが、『発達障がい』（精神障がい含）への先進的取り組みについても紹介してほしいと思いました。数的には（暗数含め）多いと思うので。
- ・37条ガイドラインの現実的な運用状況（各大学での実績）
- ・音声を文字にするシステムが開発されていないのか。コンピュータ会社と提携できるのでは？
- ・書店がテキストデータを提供することはできないのか。（冊子とデータ両方購入）
- ・わからなかったことは特になし。
- ・図書館資料のテキストデータ化について、データ化作業の内容をもっと詳しく知りたいと思いました。（たとえば完成したファイルの形式や校正作業の様子など。）
- ・また、テキストデータを実際に利用している様子、どのような形で利用されているか（拡大表示？）が知りたいと思いました。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、ご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・自閉症など発達障がいのある生徒（主に高校生）が大学に進学した後に、おこりうる問題（キャンパスライフを含め）を解消していきたいと思っています。
- ・まさに来年度、図書館での新しい取り組みを計画しています。
- ・障がい者についての関心や理解が少ないと感じる。（千葉大自体において）
- ・発達障害 視覚上に見落としがある。目に見えても注意が行き届いていないで支援が必要（な人への事例。学生対象ではない）
- ・大がかりな障害学生支援体制は、学生部主体で既に整備され、現に毎年多数の様々な障害学生学修支援が実現できている。しかし、図書館との連携は不十分で課題。
- ・本学は支援部署がないため、各学部学科単位で独自に支援を行っているため大学として統一した支援体制を作りたいと今考えています。（学部学科の独自性が高いため統一行動をとらない）
- ・本学でも視覚障害者が入学しており、図書の本のテキスト化を始めています。しかし、まだまだ手探り状況ですので、他大学の事例を参考にと考えています。
- ・販売しているオーディオブックをうまく活用できればと思っています。
- ・特にないが、来年度肢体不自由（座位を保つことができない）学生が推薦入試で入学することが決まったので図書館含めて全学体制で支援に取り組む必要がある。
- ・『発達障害』学生への支援では、まなびが多いと思われる大学がいくつかある。（ex.発達障がいの学生さんがノートテイクするという事例！ピアサポートとか！発達障がいのグループ活動、障がい学生支援コーディネーターもおられるし！）
- ・聴覚障害の学生の増減の話がありましたが、支援する上で増減はかなり大きな課題と思います。
- ・現状では特に説明できる事例がありません。
- ・「実績がない。→予算が出ない。→実績が作れない。」という仕組みのなかで、もし新入学生に障害のある学生がいた場合、新学期4月5月にどんな支援ができるのか、心もとないです。教員と職員のチームワークもとても重要だと感じました。
- ・視覚障害の学生を昨年受け入れましたが、彼らは自分の力で学業をこなしていたように思います。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・支援を必要とする学生、支援をしようとする学生、両者が学生であることに、大きな意味があると感じました。このような仕組みが、社会全体に広まることを望みます。これからはがんばってください。
- ・立命館大学の事例が参考になりました。千葉大の取り組みもすばらしいと思いました。
- ・学びたいと思っている学生さんについていねいに対応しようとするのは大切なことであるけれど、費用の面で相当な工夫と努力が必要になりますね。たくさんの方が協力し、知恵を出しあうような気軽な機会がたくさんあるといいなと思います。
- ・著作権と障害者差別解消法の関係、障害学生への実際の支援のありかたなど参考になりました。
- ・ノートテイク会の人あつめはどのように行っているのだろう・・・お聞きしたかったです。多くの学生があつまっていてうらやましい限りです！応援しています！
- ・千葉大の学生（特に支援側）は人のために努力できる人たちなのだなと嬉しかった。
- ・千葉大も聴覚障害に加えて、視覚障害に力を入れてほしい。

(次ページに続く)

